生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む
中村桂子の「ちょっと一言」
研究について
季刊「生命誌」
展示・映像
その他

あなたの考えをお聞かせください
ご意見はこちらから

みなさんからのご意見

中村桂子の「ちょっと一言」

RE: 「人間は生きもの」について考える

投稿日：2018.12.26 **ニックネーム：**ミッキー

あたりまえと書いたのは表現が良くなかったと反省しています。
実はこの夏、庭仕事の際にチョウが私の手の甲に、じっととまってくれたことに感激しました。チョウを眺めながら、自分もチョウと同じ自然の中の小さな生きものなんだな～としみじみと思いました。貴重な体験でした。私の小さな幸せです。「人間は生きもの」についてじっくり考えようと思っています。

お返事

投稿日：2019.01.08 **名前：**中村桂子館長

小さな生きものを見ることで「生きている」について考えることはよくありますね。目の前にいることが大事なのでしょう。

中村桂子の「ちょっと一言」

「人間は生きもの」について考える

投稿日：2018.12.23 **ニックネーム：**ミッキー

人間はいきものなのは当たり前だという意識が強すぎて思考が停止します。そこで人間はどんな生きものなのかという観点で考えました。

歴史上、近代化以前の人間は「心を持った生きもの」だったと思います。しかし、ルネサンスや産業革命の時代になるにつれて、人間は次第に心を持った生きものではなくなってきたようです。17～18世紀デカルトやガリレオの時代に心身二元論（心と体は別のものである）や人間機械論が提唱されました。また当時は、精神や魂については教会が独占していたという背景があります。そのころから科学者は研究対象の人間や生きものは心のない機械だとみなし始めたそうです。この考え方は、日本でも江戸時代後期の解体新書の腑分けのころから広がり始めたと思います。この「心と体は別のもの」という意識は、次第に社会全体に浸透し、今では私たちの“常識”になっています。しかし、この盲目的に信じている“常識”が本当に正しいのかどうか、もう一度考え直してみる必要があると思いました。

いま気になっている社会現象があります。情報化社会の進化に伴って企業のIT化が進み、企業は顧客を「住所、氏名、年齢、メールアドレス、購買履歴/嗜好・・・」などの「データ」だと見るようになってきています。企業が顧客を扱うには、上記のような「パーソナルデータ」があれば十分だからです。人の個性(心)を表す「思いや志、性格や気持ち」などは、企業にとってはどうでもいいことなのです。つまり、個々人はネット上で「心」のない「パーソナルデータ」として（のみ）企業や社会(政府)から認知される時代になりつつあると思います。人間が、人間を心を持たない生きものとみなし始めているということでしょうか。ちなみに、「情報銀行」という構想が総務省などの主導で進められているそうです。個人の同意の元に膨大な個人情報をビッグデータとして集め、利用できるようにしようとしているそうです。

さらに、人間は自ら進んでネット上の仮想の世界に入り込もうとしています。その結果、今年WHOが病気と認定したスマホ依存症やネットゲーム中毒が蔓延し

最新のお返事
2019年10月02日
RE:アゲハの気持ち
2019年09月26日
アゲハの気持ち
2019年09月13日
原爆について
2019年09月05日
BRHメールマガジン vol.363 新着情報
2019年08月28日
この夏一番元気だったものは？

最新のご意見
2019年09月27日
RE:アゲハの気持ち
2019年09月25日
アゲハの気持ち
2019年09月09日
原爆について
2019年09月05日
BRHメールマガジン vol.363 新着情報
2019年08月23日
この夏一番元気だったものは？

過去の書き込み
2019年 10月 GO

新着情報

10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)
10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)
昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)
パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)
あくあぴあ芥川とスタンプラリー開催 (19.10.01)

ています。また、ネット上の仮想キャラクターに心酔し、現実世界から逃避して自らも仮想世界に入り込もうとする人もいます。これは、硬貨という「物質」がネット上の仮想通貨と呼ばれる「データ」になるのとよく似ています。しかし硬貨と違い人間は、やがて現実と仮想世界との亀裂に引き裂かれることになりかねません。人間はいったいどこに行くのだろうか？と考えてしまいます。

人間が創り出す社会の進歩は素晴らしいものですが、それが人間を不幸にしては本末転倒です。その背景には、現代の人間社会の中には、心身二元論や人間機械論の形骸が無意識の常識として染み込んでいるからではないかと思います。
「人間は生きものであり自然の一部である」という生命誌の意識が、現代には必要だと思います。

追伸：最近お仲間が増えているようで楽しみです。来年もよろしくお願いいたします。

お返事

投稿日：2018.12.25 **名前：**中村桂子館長

「人間は生きもの」はあたりまえとおっしゃるのはその通りですが、現実社会はおっしゃるように生きものでなくなる方向へ進んでいますね。生身でなく情報になってしまうこと、大丈夫かなあと気になります。
私たちはこれが気になるのですが、恐らく情報化が進み、スマホと共に育ってきた世代は気にならないのだろうと思います。私など、そのことが気になってしまって・・・。
じっくり考えるしかないと今年はこれを考えます。お仲間になっていただき本当にありがとうございます。

季刊「生命誌」

皆様からのご意見の回答の返答

投稿日：2018.12.23 **ニックネーム：**相模のラクダ

中村館長、及び、斎藤様 年末の お忙しい中から、早急なる ご回答に 感謝申し上げます。本当なら、あのアンケート文で、今年は 最後にしようと思っていたのですが、ラストの１通 書きます。
少し 横道に逸れますが、「本日、天皇在位３０年 平成天皇の 御誕生日を 心からお祝い申し上げます。」昨日の 最後の「記者会見」には 心が熱くなりました。
では、元に戻り、
♦斎藤様の言われる様に、BRHカードを 全ての 読者様を 満足させるためには、実際問題 非常に難しいと思います。秘策を興味深く期待いたしております。
♠基本的に、館長様の おっしゃる通りだと思います。JT生命誌研究館は、科学的な研究館であり、アミューズメント施設ではありません。でも、子供たちは、BRHカードを読むよりは、研究館に 実際に行き 見学した方が、子供たちには「生物」に対する興味度合い＝五感への「訴求力：展示物や解説」が、面白く興味を引くと思います。また、館長様が主張されているように、「子供たちが生き生きと生きる社会」を達成するために、貴研究館として「大人」に対し 何ができるのか！？は、館長様の、「主張を出し、特色や ベクトルを示す」実行力にかかっているような気がします。

もう１つ、気になるのは、少子化に伴い、日本国内の 科学の研究者人数、引用される論文数（質）、研究費等が減少し、かつ、研究環境（：業務 契約年数や 給料）が単年扱いに変化し、今後の 基礎研究成果（ノーベル賞等）が望み難いのではないかと心配しています。→ 国策を改善していただけれべ幸いなのですが・・。

ちなみに、また 横道に逸れますが、来年の 6月１日号の BRHカードは 発行されないのでしょうか･･･？ 来年、５月１日～の 新元号も 気になりますが、 新年が貴館にとって、飛躍の年になるよう願っています。

お返事

投稿日：2018.12.25 **名前：**中村桂子館長

とてもありがたい御意見をいただき御礼申し上げます。正しい答はないのでしょうけれど、その時とても大事と思ったことを発信し、地道に続けることかなと思っています。またお考えお教え下さい。

お返事

投稿日：2018.12.25 **名前：**表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

お返事ありがとうございます。おっしゃる通り、全員が大満足、とはいかないかもしれません…。大切なのは、いま伝えたいことや皆で考えたいことを素直に発信すること、そしてこのような場で対話させていただくことなのだと思っています。これからもぜひ、お考えをお聞かせください。
来年の季刊誌ですが、6月1日（100号）と12月1日（101号）の年2回発行とする予定です。いつも丁寧にお読みいただき、ありがとうございます！
100号に向けて、気を引き締めていきたいと思います。どうぞよい新年をお迎えください。

季刊「生命誌」

季刊生命誌WEBフォームより

投稿日：2018.12.21 **ニックネーム：**相模のラクダ

今年も早いもので、もう、メリークリスマス！と､お正月です。
この「アンケート」の目的とは異なるかもしれませんが、今後のＢＲＨカード：特に「１０１号：今後について」のアイデアの「キーワード」が浮かびましたので、ご連絡いたします。それは､少子化問題の中にある､【未来を担う】「子供たち」です。はっきり言うと､これまでの､ＢＲＨカードは､研究の 最先端題目の報告､異業種の 専門家・芸術家との 対談等､【子供たち】にとっては､レベル的に非常に難しく思います。ですので､１０１号は､「子供たち」にも容易に理解でき､興味を引く題材で 製作しては どうでしょうか！？ 【キーワードは：未来を担う子供たち】だということを理解いただき、新しいタイプの ＢＲＨカードの「構想・企画」に お役立いただければ幸いです。媒体については､ＢＲＨカードの様な、紙媒体が、個人的には好きです。 中村館長も色々あるでしょうが、お気持ち 切り替え、お体に留意され､お元気に過されてください。では、皆様 良い新年を お迎えください！

お返事

投稿日：2018.12.21 **名前：**表現を通して生きものを考えるセクター・齊藤

アンケートのご回答、ありがとうございます。BRHカードは子供に限らず大人の方からも「難しい」とのご意見をいただくことがしばしばで、まだまだ編集の努力が必要と痛感しています。来年のBRHカードは少し形を変え、年齢や職業を問わず、より多くの方の感性に訴えるものにしたいと思っています。ご指摘のように、ときに子供の視点に立つことは大切ですね。子供たちの感性は素晴らしいですし、彼らに喜んでもらえたら、こんなに嬉しいことはありません。楽しみながら悩んでいきたいと思います。

お返事

投稿日：2018.12.21 **名前：**中村桂子館長

大事な御提案ありがとうございます。確かにＢＲＨの活動は「子ども」を意識して進めてはおりません。でも子どもは子どもなりに楽しんでくれているところもあり、それは大歓迎です。社会にとって子どもは大切な存在であり、子どもが楽しく遊んでいる社会であって欲しいといつも願っています。昨年の私の関心の中心であった「ふつうのおんなの子」に登場するのはみんな私が大好きな子どもたちです。私は、「今の大人がつくっている社会が子どもが子どもとして生きられる状況から著しくはずれている」ことがとても気になり嫌なのです。２０１９年の私の課題はそれです。「子どもたちに楽しく語りかけること」は大事ですが今の私の緊急の課題、生意気を言うなら生命誌にしかできないことは「子どもが生き生きできる社会をこわしている大人」に呼びかけ、なんとか生きものらしさを持っていただくことなのです。それが子どもたちにとって一番大事なことだと思っています。研究館のことを考えて下さっての重要な御提案であり、本当にありがたく思っています。このお返事は子ども向けのことはしないという意味ではありませんので否定的なものと受け止めないで下さい。子どもを意識しての企画を考えることは忘れないでいたいと思います。これからもお仲間としてよろしくお願いいたします。

中村桂子の「ちょっと一言」

《自由》と【多様性】の関り…

投稿日：2018.12.15 **名前：**井上道代

お返事ありがとうございます。「生物学的自然主義」という考え方を初めて知り、さっそく調べてみました。二元論や唯物論との関わりは勉強不足でよくわ

かりませんが、人間を生物・自然の一部として考えていく考えは、私にもとってもピッタリくる考え方だと感じました。
人間について…ですが、私は以前、人はなぜそのように考えるのか、なぜそのような価値観・考え方になるのか知りたい…と考えている時期がありました。劣等感や裏返しとしての優越感に囚われる自分が嫌だけど抜け出せない…という思いが裏にはありました。環境と自分との相互作用から価値観は産まれてくる…と今は思っています。一方で、人はなぜ、こんなに《自由》を求めるのだろう…ということも考えています。自分で自分のことを決める自由は何物にも代えることはできません。少しぐらい得することがあっても自由の方を選ぶ場面はありますよね。なぜだろう…と思っていましたが、こんな考えに思い当たりました。
　《自由》を求めるこころは、【多様性】を担保するものではないだろうか。生物における多様性は、環境の中で生き延びていくために生命が生み出した巧みな戦略と捉えています。（あっていますか？）ＤＮＡがランダムに変異することで多様化し、地球環境が激変しても適応して生き残ってきたからこそ、私達は今生きているのですよね！（ほんとに奇跡的です！）だからそもそも、生物は、多様性を持つようにできていて、【多様性】には、根本的な意味で、優劣はない。”弱い”者が生き延びてゆくことが、進化の様々な場面でありましたよね。人間も生物・自然の一部なので、【多様性】を求める欲求が備わっているんじゃないかと考え、それが、《自由》を求めるこころになっているのかな…なんて考えてみました。（生物学的な多様性と人間の価値観の多様性はレベルが違いすぎるかもしれませんが…）今の社会の「生きにくさ」は、【多様性】を否定し、一定の価値観による優劣で動いている事にも大きな一因があるように感じます。【多様性】が本当に尊重されている社会だったら、もっと「生きやすい」だろうな…と思います。

お返事

投稿日：2018.12.17 **名前：**中村桂子館長

メールありがとうございます。御一緒に考えて下さってとても嬉しいです。「生物学的自然主義」。私もよく知りません。「的」とか「主義」とかは苦手だものですから。でも、読むと内容は私がふだん書いている「人間は生きものということを基本にしよう」という考え方と同じと思えるのです。そこにはもちろん多様性の担保は入っています。生活の側からすなおに考えることと重なる思想がいいですよね。

中村桂子の「ちょっと一言」

人が生きるとは

投稿日：2018.12.14 **ニックネーム：**mokukiti

いつも楽しみに拝見させて頂いています。
館長のご意見にはいつも「そうよね～」と頷かされることばかり。ですが、なかなか自分の考えをまとめることが出来ず、投稿も出来ずにいました。
が、今回の「生きにくい」という言葉に、常々今の世の中は私には生きにくいなぁと感じているものですから、これは書かなくては！と。
今は何でも効率や勝ち負けで判断したり、線を引いてあっちとこっちという風に区別したがりますが、そういうことが出来ない世界があるということを認めようとしないのか知らないのか・・・
私は、木工の仕事をしていて、畑で無農薬で野菜も作っています。
自然を相手にしていると人の考えではどうにもならないことが多々おこります。無理にこちらの考えに合わそうとするとうまく行かないことも、自分の方を相手に添わせるとすんなりいくことがあります。
そういう時は自然の持つリズムに自分がピタッとはまった気がしてとても気持ちがよく、幸せな気持ちになって安心できます。
忙しすぎる今の世の中のスピードでは気づくことが出来ないことなのかもしれません。そのリズムの違いに「生きにくい」と感じているのでしょう。
ヒトも自然の中の一つの命なのに、なぜ自然のリズムとはずれたところに行こうとするのか疑問ですし、そうなるようになっているのだとしたらどこへ行こうとしているのか・・・・その先に何があるのか・・・ちょっと危険な方向に向いて行っているような気がしますね。

やっぱり言いたいことをうまくまとめられませんでしたが、ゆっくり考えてまたお話しできたらと思います。

お返事

投稿日：2018.12.17 **名前：**中村桂子館長

メールありがとうございます。「生きにくい」という感じがどんどん強くなっていませんか。特別のことを求めているのではないのに。もしかしたらそ

れだから生きにくいのかもしれませんね。競争の中に入ってペースをあげないとダメと言われてしまいますから。生きもののリズムを大事にしたいというお仲間がいらして下さり幸せです。

中村桂子の「ちょっと一言」

畑新人

投稿日：2018.12.14 **ニックネーム：**枝豆あらためエンドウ豆

いま畑に励んでおります。畑の仲間には、会社勤めがつらくなり休職中の人もいます。最近はベトナム人の家族も参加しました。野菜の出来具合を褒め合ったりして、人とひとをよい距離感をもってつなぐ場になっていると思います。
また、土づくりにはいろいろな虫や菌類のはたらきが欠かせないこを知りました。その奥深い世界に驚いています。（いまになってまた学びの楽しさを知るとは！）
ただ忙しくしてきた自分にとって、忘れていた大切なことに目を向かせてくれているように感じています、

お返事

投稿日：2018.12.17 **名前：**中村桂子館長

枝豆よりエンドウ豆の方がよいですか。両方おいしいですよね。
畑仲間という言葉、いいですね。これを聞いただけでさまざまな関わりや時間が思い起こされます。生きものの時間を楽しむよい場をもつこと、とても大事だと思います。

季刊「生命誌」

季刊 生命誌９９号

投稿日：2018.12.13 **ニックネーム：**アップルパイ

「中村館長、スタッフ一同様」
もう、９９号、次号は、”平成” 元号 最後となる 記念すべき １００号ですね！
皆様の 苦労の 積み重ねなのでしょう。お疲れ様です。さて、届いた、９９号を一読し、紙工作も作り、全体的な、感想を述べさせていただきます。
●「館長からの手紙」：文章が理解しやすく、今号の 全体像が、優美な言葉で表現されていて、羨ましい限りです。
●「北大 准教授 小林快次 氏 との 対談」：小林准教授が、恐竜が大好きであり、今、地球は、第６番目の 生物絶滅期にあるのに「人間は 自分たちが 本当に優秀だと思っているのでしょうか？」→ これは、心に刺さってくる言葉であり、全人類は 再考すべきなのでしょうか？
●RESEARCH ０１:「後ろ足を生み出すしくみ」０２:「イモリの再生と赤血球の不思議な関係」 ０１:後ろ足は、PSMとLPMの架け橋である GDFが大きな役割をしている。→ ビックリする発見ですね！　０２:イモリの４肢＋尾 の 再生には、意外にも 赤血球が 重要な関与をしている → 驚きました。ｉｐｓ研究と コラボすれば、再生医療に応用できるのではと感じました。
●清水孝雄 氏 の脂質研究：人生の上で、巡り巡って、脂質から 新酵素を発見され、世界の人々を 治療出来る 新療法を開発されたのは 偉大な功績だと感じました。
●紙工作：「容」に適した コンセプトで、意匠 にも優れ、容易に完璧に作れて、綺麗で、内容も理解しやすく、Ｇｏｏｄです。
★毎号＋（１００号、１０１号）期待しております！ 新な「アイデア出せなくてすみません」　季節柄、お体 ご自愛を。では･･･。

お返事

投稿日：2018.12.13 **名前：**中村桂子館長

ていねいに読んだり、作ったりしていただきカードたちが喜こんでいると思います。小さな生きものたちに驚かされながらやはり思うのは「人間は本当に賢いのですか」ということです。「生命誌」ものんびりしてはいられません。来年はそれを問う年かなと思います。

中村桂子の「ちょっと一言」

「こころ」について

投稿日：2018.12.01 **名前：**井上道代

初めて投稿します。生命誌研究館を通じ、生命の巧みさ進化の不思議さについての最新の知見に触れわくわくさせてもらっています。「こころ」も、興味が尽きないテーマです。でもまず「こころ」とは何を指すのかについて、共通認識がいるかな…とも思います。私のイメージでは、「こころ」は、感情を指す部分が大きいと感じます。親しい人と分かり合えて嬉しいという感情、見知らぬ人が災害に遭ったに時に自分だったら…と想像し悲しいと感じる感情等々。ちょうど、ジル・テイラー氏の「奇跡の脳」を読んだところですが、右脳と左脳の働きの違いを知り、右脳が、感情の働きに大きく関わっていることを改めてを知りました。また、体と同様に「こころ」も、育てていくものだな…とも思います。人と関わり、嬉しい経験をすることなく、人を信頼する心は産まれません。
一方、「こころ」を《意識》とすると、身体と脳の関係になりますね。身体がなくなっても将来脳の機能をコンピューターに移すことができたら、意識は死なないで生き続けられると考える人が、実際にいるそうです。（意識の移植）。東大の脳科学者の先生が20年後の実用化を目指しているとか。でも、身体在っての《意識》・「こころ」ではないかな…と思うので、この考えには、納得できない思いがあります。（死んで、自分が無になってしまうことのへの恐怖は、この脳科学者の先生同様、私も持ち続けていますが。）身体があり、そこから入力された情報を基に意識・こころが形作られていく。たとえ一卵性の双子でも、いる場所が既に違い、見ている風景が違うので意識は違いますよね。
「こころ」って、アプローチの仕方が多様過ぎて、広がってしまいますね。でもこの問題に、科学的な考え方を基盤にして考え意見を交流できる場を作っていただき、（それを先日見つけたんですが）とっても嬉しいです。ありがとうございます！まだ、思いつきばかりですが、色々考えていきたいです。

お返事

投稿日：2018.12.03 **名前：**中村桂子館長

初めての投稿をいただき心から御礼を申し上げます。人間が生きものであるというあたりまえのことを大切にしようという、まさにふつうの気持で進めている研究館の活動ですが、日々生きづらくなっているような気がして少していねいに考えたい気持になりました。
「こころ」にこれぞ正解という答はないのかもしれませんが、これまで出されてきた心身二元論や唯物論などに対し、最近出てきている「生物学的自然主義」をとり入れて考えてみたいと思っています。私の場合、「主義」というほどのものはなく、こんな風に考えるというだけですけれど。この考え方を出している本を読むと、生きものであることを大事にしようという私の思いと重なるように思えるものですから。「ちょっと一言」で追い追い考えていきますのでよろしくお願いいたします。

▲ページの先頭へ

JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750（代） FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.